

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	福祉施設と地域が相互に助け合う関係の構築に努力し、“地域と共に歩む”を基本理念に行っている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングの中で、理念に基づいて話し合い確認を行っている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	グループホームの入り口に分かりやすい表現で掲示してある。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立ち寄ってもらったりする交流は出来ていない。しかし、散歩時に近隣の方と挨拶を交わしたり、畑で採れた物を戴く等、交流は図れている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣のお宅の藤の花を拝見させて頂く交流や、地元中学校の運動会や、音楽会に招待される等、交流を図っている。	

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>人材育成の貢献として実習生の受け入れを行っている。</p>		
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>“外部評価とはどのようなものであるか”を説明し自己評価に取り組んだ。</p>		
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>メンバーの方々には毎回参加を頂いている。活動の取り組みについて報告を行い意見をもらうようにしている。</p>		
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>空き状況を伝え、入居申込者の要請をしている。</p>		
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度を知っている職員が少ない。また、利用する対象者がいないため、行っていない。</p>		
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティングの中で、新聞等の事例を通して虐待について話している。防止については、入浴時や外泊時等、あざ等がないか全身確認を行い早期発見できるように努めている。</p>		

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		<p>異動や、離職は最小限に抑える。やむを得ない場合、引継ぎをしっかりと行いダメージを防ぐ。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		<p>ストレス軽減を図る為、法人のボーリング大会や慰安旅行等、環境を整えている。しかし、今年度、離職による勤務の入れ替えが多かった為、既存の職員に負担が多くかかりすぎた。</p>

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>ヘルパー2級講座や介護福祉士等、資格取得に向け支援を行い取得後は、資格が活かせるよう労働環境が整っている。職員が向上心を持って取り組めるよう人事考課で職能評価を行っている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面接及び、入居時に本人と話をして困っていること、不安なこと等を傾聴して安心していただけるように努めている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申し込み時に、生活状況、介護での悩み等を伺っている。入居時に、生活歴や今までの経緯について話を伺った上で、家族の介護に対する意向を聞いている。</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>同法人は、総合福祉施設のため、利用申し込みの時に、介護で困っていることをうかがった上で、必要に応じ老健、特養ショート、在介等と連携を図り対応している。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>仮入居期間を設けている。本人が馴染めるまでは、ご家族にも協力を求め、面会数を増やしていただいたり、家族に泊まっていただく等、徐々に馴染めるように工夫して対応している。</p>		

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者からおやきの作り方教えてもらったり、昔の話を方言を交えて話す中で、会話を通して労わってもらったり、励ましてもらうことがある。</p>		<p>現在、短期入所は行っていないが、次年度、必要な研修を取得し、今後、短期入所を取り入れるように整備して、利用者が徐々に馴染む事が出来るよう、混乱の軽減に努めていきたい。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の日頃の様子を家族に伝えたり、外出、外泊の機会を設けている。ホーム内で一緒に、行事に参加して頂いたりしている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族の関わりが薄い利用者は、具合が悪い時だけ家族来るような状況。面会が少ない家族には、無理に働きかけても負担となる為、難しい。本人が家族に対しての想いを手紙や電話、面会時、に伝え働きかけている。行事や外出の機会に関わっていただけるよう努めている。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者が、馴染みの美容院へ行ったり、遠方に暮らす息子と年に1回墓参りに出掛けたり、親戚、知人が面会に来る。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>新規利用者が多い為、互いに支え合っている深い関係には、まだ達していないと思う。気の合う合わない同士に配慮しながら、活動時や、お茶の時など、利用者同士が会話できるようにしている。</p>		

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		<p>ご家族が、施設の喫茶店のボランティアや、洗濯たたみのボランティアとして来て頂いている。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		<p>日々の関わりの中で、把握に努め、本人の意向はケアプランに反映している。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		<p>本人や家族、及び担当ケアマネージャーから話を伺い把握に努め職員間で情報を共有している。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		<p>毎日の状態を記録し、ミーティングで職員間で情報を共有している。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		<p>職員は、本人の希望や、家族に意向を聞きアセスメントを行い、ケアプランを作成している。</p>

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3ヶ月に1度見直しを行っている。状態が変化した時は、その時に応じて変更を行っている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態や、日々の暮らしの様子、本人の言葉等、記録しており、職員は勤務開始前に必読している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が、一般浴槽の入浴が困難になった場合、状態に応じ、併設の特浴を借り、入浴の支援が出来る。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域住民、消防関係者と協力し、防災訓練を実施。地域の中学校の行事に参加させていただいたり、ボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームでの生活が、困難になった利用者の受け入れ先など、他事業所と連携を図っている。		

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加していただいているため、何か困った時等、連携し協力を得ている。</p>		
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>個々に掛かりつけ医が異なる為、受診は、家族で対応して頂く事を、利用契約の時に説明し、同意を得ている。又、適切な医療が受けられるよう、主治医に情報提供を行い、必要に応じて、往診に来てもらうなど、関係を密に行っている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>受診は家族対応としているが、必要に応じて主任が家族と一緒に付き添い、市内の専門医師と相談したり、連携を図っている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護師1名配置し、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時、医療機関と連携を図り、情報提供を密に行い、早期退院に努めている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りの指針がある。ADL低下した場合、その家族及び、主治医に状態説明をし情報の共有を図り、話し合う機会をその都度、設けている。</p>		

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医と連携を図り、家族、本人、主体のもと、取り組んでいる。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む時は、本人の状況、習慣、ケアでの関わり方など、細かい情報を文章で提供している。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いには、全職員が注意を払うよう徹底している。言葉掛けは、理念を念頭におき、相手を尊重した声掛けをするよう、ミーティングで話し全職員が気をつけている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	周りの環境に配慮した上で、説明を行い、自己決定して頂けるように支援している。		

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添い、食事や、入浴など、ペースを合わせ、対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えは基本的に本人の意向で、決めている。美容は、家族協力の下、馴染みの美容院を利用したり、出張に来る理髪店を利用している。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食のみ配食を利用しているが、朝食と夕食は、一緒に関わっている。苦手なものは、代替を用意したり工夫して、食べられるように支援している。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物や、おやつ類は、本人の希望時に、買い物の支援を行い、好きな時に部屋で食べて頂いている。健康面で心配のある方には、時間や様子を見ながら、嗜好を楽しめるように支援している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿チェックで排泄パターンを把握したり、必要な方には、時間誘導を行い、失禁の軽減に努めている。		

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中の中の入浴や、午後の中の入浴等、個々の状態や、希望に合わせてながら、誰でも、好きな時間に、毎日の入浴が出来るように支援をしている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は活動を促し、生活リズムを整え、夜は就寝前に、温かい牛乳を飲みながら、安心して安眠に繋がるよう会話をしたりして、過ごしている。日中も、個別に体調を考慮し、休息していただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫、編み物、食事作り、貼り絵、散歩、買い物など、個々に持てる力を発揮できるように支援をしている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、小額を持っており、買い物の機会を設けている。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じ野外への支援を行っている。天候に応じて、車椅子の方でも、野外散歩に全員で出掛けている。		

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	その季節ごとに、行事計画を立て、実施している。家族にも協力して頂き、墓参りや、温泉等に出掛けている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙の受け取りや、毎年、年賀状を出す為の支援を行っている。携帯電話を所持している利用者もいる。本人を支える支援として、家族から本人に、気軽に電話をもらえるように、働きがけている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人の部屋や、リビング等、好きな場所で過ごしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームの入り口の施錠は、夜勤者が一人の時間帯のみ。9時から18時は施錠していない。転倒の危険度が高い利用者には、目配り、見守りを強化して、事故のないように安全面に配慮しながら、対応している。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日々、利用者の行動観察と、所在確認を行っている。出て行った利用者には、距離を置いて付き添い、さりげなく声掛けをする等、安全面に配慮しながら、利用者の行動の自由化を図っている。		

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者が見渡せるようにリビングに いることが多い。その場を離れる時は、他の 職員に声を掛け連携を図り、利用者の所在 確認や、安全面に配慮している。また、利用 者の居室に入る時は、必ずロックをしてから 入室している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、 一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取組 みをしている	刃物、洗剤、薬、裁縫道具は一律に保管場 所を決め安全管理に努めている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ ための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた 事故防止に取り組んでいる	個々に日々の利用者の行動の把握に努め 所在確認、転倒予防に努めている。事故発 生時は事故報告書を作成し、事故原因の今 後の予防対策について、全職員で話し合い、 家族へ説明と報告を行っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての 職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的 に行っている	応急手当の勉強会を年1回実施している。夜 勤時の緊急対応について、マニュアルに沿っ て、対応している。緊急時の対応は、周知徹 底を図っている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わ ず利用者が避難できる方法を身につけ、日ご り地域の人々の協力を得られるよう働きかけ ている	地域住民と消防署の協力のもと、避難、消火 訓練等、毎月行っている。夜勤者は、災害時 の緊急対応マニュアルを、夜勤中に必読して いる。その他に職員は、緊急時に備え、連絡 網で通報訓練を行っている。非常時の非常 食は、母体で2日分位、確保している。		
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等 に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対 応策を話し合っている	状況に応じて、個々に、アセスメントを行っ ている。おこりうるリスクについては、その都 度、家族に説明、及び、報告を行っている。 面会や外出の機会を捉え、実際に見て頂 き、理解を得ている。		

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>バイタルチェックを実施し、普段の様子を把握し、異常の早期発見に努め、異変時は、家族に連絡。状況に応じて受診していただいている。併せて、リーダー、管理者に報告している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>ケース台帳に内服薬内容を開示。職員はいつでも確認が出来る状態にしている。服薬時は、本人に手渡し、きちんと服用できているか確認している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>食物繊維の多い食事にしたり、腹部マッサージ、軽い運動等、取り入れ、なるべく自然排便を促している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、歯を磨くよう声を掛たり、職員も一緒に行う等、工夫している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事チェック表で食事摂取量を記入し、職員が把握出来るよう情報を共有している。コーヒーや、カルピス、昆布茶等、嗜好を凝らし、水分確保に努めている。</p>	

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員会があり、マニュアルに沿って、予防に努めている。食事前と散歩後、及び野外から帰ってきた後は、手洗い、うがい励行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	3ヶ月に1回、ウイルス検査実施。毎月1回、職員検便施行。随時、調理器具使用前、消毒。毎週1回、冷蔵庫掃除、食器棚清掃実施にて、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外部から訪問される方用に、インターホンを設置。その他、特養側からも、いつでも出入りが出来るようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品を展示したり、心地よく過ごせるようにテーブル、ソファの位置に配慮してある。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、各々、席が決まっているため、安心できる居場所がある。		

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの家具(ベット、タンス、テレビ)や、家族の写真等を持ち込み思い思いに過ごしている。</p>		
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>夏場は、風通しを良くするように心がけ、冬場は、温度、湿度が一定以下に下がらないよう、調整している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>脱衣場のスライド式ドアが、利用者にとって転倒に繋がるものであった為、撤去して、代替として、利用者が作成した、暖簾を垂らして対応した。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>混乱を招くようなものに対しては、家族や、職員間で話し合いをしたり、「どう、力を取り戻していくか」を職員間で話し合いをして支援に繋げている。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭にスロープを取り付け、車椅子の方でも庭に出る事ができる。玄関先に椅子を置き、休憩の場を設けている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に つけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・保育園が併設されていたり、学校との繋がり、ボランティアの受け入れがあり、各行事毎、保育園、児童、生徒、学生、ボランティア等の幅広い方々と触れ合うことができる。